報道資料②

関　係　各　位

山口市長　渡辺　純忠

第２６回中原中也賞の発表

<table>
<tr><td>受賞詩集</td><td colspan="4">水際（みずぎわ）</td><td rowspan="5"> </td></tr>
<tr><td>著者名</td><td colspan="4">小島（こじま）　日和（ひより）</td></tr>
<tr><td>出版社</td><td>七月堂</td><td colspan="3">刊行年月日　２０２０年７月１日</td></tr>
<tr><td colspan="3">著者の住所
東京都</td><td colspan="2">出身地
福岡県福岡市</td></tr>
<tr><td>年齢</td><td>２３歳</td><td>生年月日</td><td colspan="2">平成９（１９９７）年１２月１９日</td></tr>
<tr><td>性別</td><td>女</td><td>職　　業</td><td>会社員</td><td>最終学歴</td><td>早稲田大学文化構想学部卒</td></tr>
</table>

《コメント》

このたびは、第２６回中原中也賞にお選びいただき、ありがとうございます。

まず、選考委員の方々に読んでいただけたことが、うれしいです。

この『水際』は、おととしの春に詩を書きはじめてから、およそ１年間に書いたものをまとめた詩集です。

ですから、これから先、ずっと長い時間のなかで、なにを、どう書いていくのか、わたしにもわかりません。ただ、少しでもいいものを探していくために、少しでも長く書きつづけられたら、と思います。

最後に、詩を書きはじめるきっかけをくださった方、いつも、詩を書いているわたしのことを見ていてくださる皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

《選考経過》

公募、推薦の詩集２６８点について本年１月に開催された推薦会の検討の結果、青木由弥子（あおきゆみこ）『しのばず』、石松佳（いしまつけい）『針葉樹林（しんようじゅりん）』、江夏名枝（えなつなえ）『あわいつみ』、大島静流（おおしましずる）『飛石（とびいし）の上（うえ）』、尾久守侑（おぎゅうかみゆ）『悪意（あくい）Ｑ４７（キューフォーティーセブン）』、小島日和（こじまひより）『水際（みずぎわ）』、萩野（はぎの）なつみ『トレモロ』の７冊が選ばれ、本日の選考会の対象とされた。

コロナ禍のなかでも、オンラインではなく、顔を合わせて議論したい、ということで、選考会は近年になく盛り上がった。

候補作７冊のなかで、最終的に大島静流『飛石の上』、小島日和『水際』の２冊をめぐって、長い討議が行われた。ともに同年齢、インカレポエトリ叢書シリーズの２冊である。どちらも大きな可能性を秘めた詩集だが、まったく言葉の出し方が違っている。

大島静流『飛石の上』は、候補作のなかで唯一、言葉を対象にしており、対象との的確な距離感が心地よい。テンポもよく、アフォリズム的な決断力も優れている。ただし、そのバランスの良さが、ここから先、どこへ抜け出るか。

小島日和『水際』は、のびやかでなめらかな言葉を駆使して、日常の現実の時間を手さぐりで描く。母親、父親、故郷など、作者が捨ててきた分厚い過去の歴史を再現しようとする試み。詩句が成立する背景の物語が大きく、ここにはやわらかな作者の声が明確にある。未知数だが、発展段階の個性が十分発揮されていることから、全員一致で、第２６回中原中也賞受賞作品に決定した。

選考委員：荒川洋治（あらかわようじ）、井坂洋子（いさかようこ）、佐々木幹郎（ささきみきろう）、高橋源一郎（たかはしげんいちろう）、蜂飼耳（はちかいみみ）（５０音順・敬称略）

《山口市長コメント》

第２６回中原中也賞が、小島日和さんの詩集『水際』に決定しましたことを、心から御祝い申し上げます。

この度受賞されました小島日和さんが、今回の受賞を契機に尚一層、活躍の場を広げられ、さらなる飛躍をされますようを心から御期待申しあげます。今後とも多くの方々が、中原中也賞をひとつの目標として創作活動に励んでいただければ幸いです。

令和３年２月１３日　山口市長　渡 辺 純 忠

※受賞者の年齢は、R3.2.13 現在